

令和元年5月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和元年5月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

元号が令和となった5月1日に、八戸市は市制施行90周年を迎えました。

この節目の年に、当市が更なる飛躍・発展の歩みを進めて行く契機とするため、90周年記念キャッチフレーズ「歴史を紡ぎ90年 輝く未来へ 八戸市」のもと、各種記念事業を実施することとしております。

市主催事業のほか、市民の皆様が主体となって市との協働により実施する事業もございますので、より一層の市勢の発展へ向け、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆記念事業の詳細はこちらをご覧ください（市ホームページ）

<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/8,127084,15,html>

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 5月号 レポート

平成31年4月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	屋内スケート場「YSアリーナ」完成記念こけら落としの音楽フェスティバル開催
(2)	“移動式オービス”八戸に登場 通学路で速度違反取り締まり
(3)	種差海岸インフォメーションセンター 来館者70万人を達成

## 【産業】

記事	概要
(4)	八戸圏域版DMO「VISIT（ビジット）はちのへ」発足
(5)	八戸屋台村「みろく横丁」リニューアルオープン
(6)	人気の高級食パン店「乃が美」八戸店オープン
(7)	「惣菜・べんとうグランプリ」吉田屋（八戸市）の2品が金賞
(8)	八戸みなと漁協直売施設「浜市場・みなとと」オープン
(9)	「鯖サミット」11月に八食センターで開催 ～自慢のサバ 広くPR～
(10)	「南部せんべいブランド力向上プロジェクト」8月に中心街でイベント開催
(11)	ミンククジラの調査捕鯨 5月に八戸沖で実施

## 【地域】

記事	概要
(12)	工大一高消防クラブ 消防庁長官賞受賞
(13)	「全日本チンドンコンクール」永田美香さん（八戸市出身）準優勝
(14)	蕪島でウミネコの初産卵を確認
(15)	小中高生らによる「鮫神楽」発表会開催

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	「南郷サマージャズフェスティバル2019」7月27日開催
(17)	造形家の故伊藤二子さん ニューヨークの「アートエキスポ」に出展
(18)	八戸に女子サッカークラブ発足
(19)	ロッテの種市投手（工大一高出身）プロ初勝利
(20)	「ピーウィー国際アイスホッケー八戸記念大会」開催 八戸ホワイトベアが準優勝

【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>屋内スケート場「YSアリーナ」完成記念こけら落としの音楽フェスティバル開催</b></p> <p>八戸市は、市立屋内スケート場「YSアリーナ」の完成を記念したこけら落としとして、音楽フェスティバル「WORLD HAPPINESS with HACHINOHE」を8月24日に開催することを発表した。出演者は現在、高橋幸宏さん、ゴスペラーズ、槇原敬之さんの3組。今後も追加発表を随時行う予定。当日は午前中にアリーナの完成記念式典を行い、午後からフェスがスタート。さまざまなグルメが楽しめるフードエリアも用意する。チケットは2種類あり、アリーナ席が税別9千円、スタンド席が同8千円。5月24日まで先行販売を行い、同25日に一般販売を開始する。</p>
(2)	<p><b>“移動式オービス”八戸に登場 通学路で速度違反取り締まり</b></p> <p>八戸署は4月18日、青森県警が1台導入している可搬式の速度違反自動取締装置を使った交通指導取り締まりを八戸市立函南小付近で実施した。可搬式装置はスキャンレーザーにより、一定の速度を超えた車両を撮影。後日、ナンバーや運転手の顔などを基に所有者を特定する。この付近は通学路となっている一方、道幅が狭い上に交通量も多い路線で、取り締まりは児童が登校する午前7～8時に実施した。同署は効果を見た上で、今後も生活道路や通学路で使用する方針。</p>
(3)	<p><b>種差海岸インフォメーションセンター 来館者70万人を達成</b></p> <p>種差海岸インフォメーションセンターの来館者数が4月29日、70万人を達成した。同センターは、三陸復興国立公園の種差海岸天然芝生地を望む場所に立地。国立公園や「みちのく潮風トレイル」などの情報を発信する拠点となっている。国立公園指定から約1年後の2014年7月に開館。2018年4月には60万人に到達した。この日、70万人目となった青森市の会社員大室順さん、幸子さん夫婦に記念品が贈られた。</p>

【産業】

記事	概要
(4)	<p><b>八戸圏域版DMO「VISIT（ビジット）はちのへ」発足</b></p> <p>八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）「VISIT（ビジット）はちのへ」が4月1日に発足し、観光と物産の振興による地域活性化に向け始動した。VISITはちのへは、八戸地域地場産業振興センター、八戸市物産協会、八戸観光コンベンション協会が合併した一般財団法人。八戸市観光課の約6割の業務を移管した他、八戸広域観光推進協議会の事業も移し、計5団体が事業統合した。ユートリーで開かれた設立記念式典には、圏域の関係者ら約500人が出席し、DMOの誕生を祝った。組織のCEO理事長には、八戸観光コンベンション協会会長だった塚原隆市氏が就任した。</p>

<p>(5)</p>	<p><b>八戸屋台村「みろく横丁」リニューアルオープン</b></p> <p>八戸屋台村「みろく横丁」が4月18日、改装工事を終えてリニューアルオープンした。リニューアルは2016年に続き5回目で、全26店舗のうち過去最多の12店舗が新規出店。今回は、数店舗でキャッシュレス決済に対応するなど、年々増加するインバウンド（訪日外国人旅行）客への対策も強化した。この日は、オープニングセレモニーが開かれ、中心商店街や、商工関係者らが出席。関係者によるテープカットに続き、出店者らが「頑張ろう」を三唱し、第6期の営業に向けて氣勢を上げた。</p>
<p>(6)</p>	<p><b>人気の高級食パン店「乃が美」八戸店オープン</b></p> <p>高級食パン専門店「乃が美はなれ八戸店」が4月5日、城下4丁目にオープンした。乃が美の食パンは卵を使用せず、カナダ産の高級小麦を100%使っているのが特徴。しっとりもちもちとした口当たりで、ほのかな甘味がある食パンとして人気を集めている。現在は全国に125店舗を展開し、青森県内では青森、弘前両店に続いて3店舗目となる。この日は、午前11時の開店前から100人以上が行列を作る盛況ぶり、2本、3本と買い求める客でにぎわった。</p>
<p>(7)</p>	<p><b>「惣菜・べんとうグランプリ」吉田屋（八戸市）の2品が金賞</b></p> <p>「惣菜・べんとうグランプリ2019」の表彰式が4月17日、東京ビッグサイトで開かれ、吉田屋（八戸市）が出品した「函館カニ水産カニ味噌ごはん」が駅弁・空弁部門で、「牛ステーキとあわびとかきの鉄板焼き弁当」がプレミアム部門で、それぞれ金賞に輝いた。「函館一」は、カニのみそやほぐした身などをふんだんに使った一品で、甲羅に入ったご飯と、その下に盛り付けたご飯の味付けを変える工夫も凝らした。（税込み・1300円）「牛ステーキ」は、豪勢な鉄板焼きを弁当で再現したもので、牛肉とアワビという主役級の食材を一緒に味わえる。（同・1480円）</p>
<p>(8)</p>	<p><b>八戸みなと漁協直売施設「浜市場・みなととと」オープン</b></p> <p>八戸みなと漁協が運営する湊町の直売施設「浜市場・みなととと」が4月21日、オープンした。同日開かれた式典では、同市のかもめ幼稚園の園児らによる「イカ踊り」、関係者によるテープカットが行われた。開場後はソイヤハモ、タコなどを買求める大勢の市民らで賑わった。「漁師食堂・鮮八」では漁協婦人部が海鮮料理に腕を振るった。営業時間は直売所が午前10時（土、日曜は午前9時）～午後3時、食堂は午前11時～午後2時半。定休日は直売所が月曜、食堂は月・木曜。両施設とも年末年始は12月31日～翌年1月4日が休み。</p>
<p>(9)</p>	<p><b>「鯖サミット」11月に八食センターで開催 ～自慢のサバ 広くPR～</b></p> <p>サバの魅力を発信をする大規模イベント「鯖サミット」が、11月2、3日に八食センターで開催される。通算6回目の開催で東北・北海道では初となる。名称は「鯖サミット2019in八戸」。南側駐車場に各産地の関連ブースをはじめ、八戸せんべい汁などのご当地グルメ、八戸ブイヤベースなどが出店。催事ホールでもブランドサバの展示、販売などを実施する。地元関係者は「日本一脂が乗っている」と評される自慢の八戸前沖サバを広くPRする。</p>

(10)	<p><b>「南部せんべいブランド力向上プロジェクト」 8月に中心街でイベント開催</b></p> <p>「南部せんべいブランド力向上プロジェクト」に取り組んでいる八戸商工会議所は、8月25日から9月27日までの約1カ月間を第3回「強化月間」とし、販売促進を図る。強化月間の期間中は、個別包装の商品の店頭販売を検討。手土産用に適した形で売り出すことで、若い世代や観光客にせんべいをアピールする狙い。また、8月25日には「南部せんべいマルシェ」（仮称）を開催し、せんべいの魅力発信に力を入れる。マルシェは三日町のマチニワで開催し、強化月間に参加する店舗がせんべいを販売する予定。</p>
(11)	<p><b>ミンククジラの調査捕鯨 5月に八戸沖で実施</b></p> <p>水産庁と地域捕鯨推進協会（貝良文会長）は、5月4日から5月下旬まで、八戸沖でミンククジラの調査捕鯨を実施すると発表した。調査捕鯨では体長や体重の計測、年齢、成熟度、胃の内容物といった41項目をチェックする。解体後の副産物の鯨肉は市場を通じ出荷。データ収集は商業捕鯨でも行われ、今後の研究に活用される。日本の国際捕鯨委員会(IWC)脱退に伴い、7月1日に再開予定の商業捕鯨について、貝会長は2020年以降、八戸港を拠点の一つとする意向を表明した。</p>

【地域】

記事	概要
(12)	<p><b>工大一高消防クラブ 消防庁長官賞受賞</b></p> <p>八戸工大一高の生徒で組織する消防クラブが「2018年度優良少年消防クラブ・指導者表彰」で消防庁長官賞を受賞した。同校の消防クラブは、2018年度は1～3年生までの約60人が参加。八戸東消防署員の防災講和を聴講したり、八戸消防本部が実施する消防業務説明会や高機能消防指令センターを見学したりして、防火に関する知識を習得。また、学校で実施する避難訓練で率先して他の生徒の模範になっていることなどが評価された。同クラブの生徒代表が4月10日、八戸消防本部に上野統久消防長を訪ね、受賞を報告した。</p>
(13)	<p><b>「全日本チンドンコンクール」 永田美香さん（八戸市出身）準優勝</b></p> <p>プロのチンドン屋日本一を決める「全日本チンドンコンクール」が4月6、7の両日、富山市で開かれ、八戸市出身の永田美香さんが3度目の準優勝に輝いた。今年で65回を数えるコンクールには、全国から32チームが出場。永田さんは2007年に夫婦で立ち上げた「チンドン芸能社」のメンバーらと3人で臨んだ。「富山湾」をテーマにした本選決勝では、富山湾の丸みを帯びた地形を「母」に見立ててストーリーを構成し、合唱曲などを織り交ぜる多彩な芸で、会場を魅了した。</p>
(14)	<p><b>蕪島でウミネコの初産卵を確認</b></p> <p>国の天然記念物に指定されているウミネコの繁殖地・蕪島で4月18日、今年初の産卵が確認された。ウミネコ監視員が同日午後5時ごろ、社殿裏側のフェンス際で発見。産卵した親鳥は巣から片時も離れず、卵を大事そうに抱いていた。産卵のピークは4月下旬。5月下旬にはたくさんのおひなが誕生する。</p>

(15)	<p><b>小中高生らによる「鮫神楽」発表会開催</b></p> <p>八戸市鮫地区で200年以上受け継がれている郷土芸能「鮫神楽」の発表会が4月14日、鮫生活館で開かれた。発表会は、鮫神楽保存会が主催し、1971年から毎年行っている。地域の小中高生13人と鮫神楽連中が、「権現舞」「番楽」など8演目を2時間半にわたって熱演。荘厳でありながら、時には面白おかしく舞台を跳びはねるなどする舞の数々に、観客は大いに盛り上がった。</p>
------	--

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p><b>「南郷サマージャズフェスティバル2019」7月27日開催</b></p> <p>八戸の夏を代表する屋外音楽イベント「南郷サマージャズフェスティバル2019」が7月27日、南郷のカッコーの森エコーランド野外ステージで開かれる。今年は30回を記念し、出演者のサイン入りで、先行入場も可能なプレミアムチケット（1万円）を50枚用意。一般来場者にも記念グッズをプレゼントする。日本を代表するサクソ奏者の渡辺貞夫さんをはじめ、八戸市にゆかりのある世界的ピアニストのデビッド・マッシュズさんや、八戸市出身のトランペット奏者・類家心平さんらによるスペシャルバンドが熱いステージを繰り広げる。</p>
(17)	<p><b>造形家の故伊藤二子さん ニューヨークの「アートエキスポ」に出展</b></p> <p>1月に亡くなった八戸市の造形家伊藤二子（つぎこ）さん＝享年92＝の作品が、ニューヨークで4月4～7日に開かれたアートエキスポに出展された。「アートエキスポ」は世界各国から400人以上のアーティストが参加し、4日間で2万5千～3万人が来場するイベント。伊藤さんにとって初の海外出展で、本人も自ら足を運ぼうと意気込んでいたが、他界。一緒に準備を進めてきた青森市の画家石澤暁夫さんが諦めず、実現させた。出展者の中でも最高齢という92歳の年齢を感じさせない、斬新で刺激的な色使いと構図は、海外の愛好家の目も奪い、「ワンドフル」「アメージング」などの声が漏れたという。6月14～23日には青森県立美術館で2人展を開催する予定。</p>
(18)	<p><b>八戸に女子サッカークラブ発足</b></p> <p>八学大や八学光星高の女子サッカー部員を中心とするクラブチームが4月に発足した。八学大女子サッカー部が2018年度、東北リーグで初代女王となったことや4年連続でインカレ出場を果たした実績を踏まえ、クラブチームを新設した。メンバーは同大の17人の他、4月に設立された光星高女子サッカー部の4人、サッカー経験のある社会人3人が加わる。当面は東北女子サッカーリーグを中心に活動し、将来的には国内女子トップリーグ・なでしこリーグへの参入を視野に入れる。</p>
(19)	<p><b>ロッテの種市投手（工大一高出身） プロ初勝利</b></p> <p>工大一高から2016年にドラフトでロッテに入団した種市篤暉投手が、チーム平成最後の試合で輝いた。今季初先発して5回を6安打2失点と好投し、3年目で待望のプロ初勝利となった。今季は初めて開幕1軍入りし、中継ぎで8試合に投げて防御率1.38と好結果を残してきた。「ピンチで粘れるようになった。昨年よりは成長した」と、敵地の観衆の前でも動じなかった。師と仰ぐソフトバンク千賀の背中を追って、令和の球界を代表する投手を目指す。</p>

(20)	<p><b>「ピーウィー国際アイスホッケー八戸記念大会」開催 八戸ホワイトベアが準優勝</b></p> <p>「フレンドシップ2019第16回ピーウィー国際アイスホッケー八戸記念大会」が4月27日から5月5日までの9日間の日程で開催され、6カ国の13チーム約200人が技術交流と親善を図った。大会が八戸で開かれたのは、1989年の第1回、2009年の第11回以来3度目。今回は市制施行90周年を記念しての開催となった。決勝では八戸ホワイトベアがHCスパータプラハ（チェコ）に1-12で敗れ、準優勝となり、熱戦に幕を閉じた。</p>
------	---